

## 富士宮「地学さんぽ」 3時間コース

〈静岡県富士山世界遺産センター 企画総務課 主幹 美澤 綾子〉

スタート地点はJR身延線富士宮駅。北口ロータリーから県道414号富士富士宮線を西に進む。道はなだらかに下っているが、先を見ると下りから登りに転じているところがあり、この先に河川があることが予想される。下りきる少し前に浅間大社南交差点があり、交差点の先に見学地①の南神田橋がある。橋の下には、長さわずか1.14kmの湧水の川、神田川が流れている。橋の西にある逆三角形の特徴的な建物は、見学地②の静岡県富士山世界遺産センター。今回は「地学さんぽ」のため、「荒ぶる山」と「受け継ぐ山」の展示をじっくり見学する。「受け継ぐ山」では富士山が1707年に噴火した際に噴出した火山弾やスコリアの実物や、火山噴出物が堆積した地層のはぎ取り標本などを見ることができる。なお、富士山世界遺産センターの見学時間は60～90分が目安である。

次は駿河國一之宮であり、「世界遺産富士山」の構成資産の一つである富士山本宮浅間大社へ（見学地③）。ここでは岩石の観察ができる。拝殿の西に台座にのった石が二つある。南極の石と富士山の火山弾であると看板に書いてある。火山弾とは、火山の噴火で火口から噴き出た溶岩が空中で冷却・固結したもので、ぼうすいじょう紡錘状・パン皮状など特徴的な形をしているもの。この火山弾は紡錘状火山弾である（写真1）。

写真1 浅間大社にある紡錘状火山弾(台座上のシャープペン<sup>は</sup>はスケール)

火山弾の観察が終わったら、境内を東（本殿に向かって右手方向）に進んで、見学地④の湧玉池<sup>わくたまいけ</sup>（国指定特別天然記念物）へ。湧玉池の背後には地形の高まりがあり、富士山から流れてきた万野溶岩流が露出しているのが見える。湧玉池では、溶岩の内部を通過してきた地下水が溶岩流の末端で湧いているのである。

今度は溶岩流の末端を登っていこう。湧玉池東の県道180号富士宮富士公園線を北上する（正確に言うと北東の方向へ進む）。数分登ると、右手に城山公園が見えてくる。この公園には市天然記念物「大宮縄状溶岩」（見学地⑤）があり、溶岩が流れるときに表面にできたシワが観察できる（写真2）。ところが、この縄状溶岩は見つけにくい。公園の北東にある若之宮浅間神社をめざして歩いていくと、看板を見つけられるはずである。



写真2 大宮縄状溶岩(鳩はスケール)

これで予定していた見学は終了。城山公園から富士宮駅へ歩いて戻ると、スタートからだいたい3時間。駅から見てもわる「地学さんぽ」、いかがですか。